

4. 次世代教育

(1) 大学院教育

a. 教育目的と特徴

センターの研究部スタッフは、スラブ・ユーラシア地域研究の専門家養成を目的として、2000年度(平成12年度)から大学院教育に参加した。組織形態としてはセンターの研究部教授・准教授・専任講師全員が北海道大学大学院文学研究科の協力講座を構成し、歴史地域文化学専攻スラブ社会文化論専修という単位で大学院教育を行っている。なお、2019年度から文学研究科の文学院への改組に伴い、人文学専攻スラブ・ユーラシア学講座に改称した(以下では旧称を用いる)。

複雑化する国際社会を理解するため、政治学、経済学、歴史学、文学といった個別のディシプリン(専門的学問分野)の研究ではなく、各ディシプリンの方法を取り込みつつもその枠を超えていく学際的な地域研究を目指すのが最大の特徴である。また、スラブ・ユーラシア研究における日本唯一の拠点研究機関としてのセンターのリソース、特に豊富な蔵書を教育に活用している。院生にセンターの外国人招へい教員をはじめとする外国人研究者と交流させ、国際的な研究者ネットワークへの参加を促し、国内外の学会での報告や現地調査・一次資料収集も支援している(後述)。センターの教員が行っているプロジェクトや国際シンポジウム等に参加させ、学術集会の運営に関わる経験を積ませるとともに、自主的な研究会の企画を奨励していることも特徴である。中村・鈴木基金奨励研究員(4参照)として道外から来る大学院生との交流も、院生に刺激を与えている。

スラブ社会文化論の授業としては、各教員の専門分野にかかわるゼミ(特別演習)のほか、主に修士課程の学生を対象に、ロシア語・英語の訓練(文献講読)や、研究の基礎と方法の修得を目的とする特殊講義を開講している。また、「スラブ社会文化論総合特別演習」では、博士後期課程を含む院生全員が参加し、各自の研究報告と全体討論を行っている。これは、学会報告を意識して制限時間内に簡潔にして要を得た発表を行う能力、他者の研究に対し建設的な批判・コメントを行い、また受けたコメントを自分の研究に活かす力を身につけさせる、当専修の特色ある授業である。

そのほか、北海道大学の大学院生全般を対象に大学院共通授業科目とサマーインスティテュートを開講し、研究科等の垣根を越えて、理系も含む大学院生に、スラブ・ユーラシア研究の基礎的素養を涵養し、学問的・社会的に重要なテーマを議論する機会を与えている。北大教員だけでなく他大学の研究者・実務家なども講師として招き、毎年8月初め頃と2月初め頃に集中講義の形式で開講している。また、毎年2学期に国際交流科目(全15回)を開講し、ロシア史の基礎を英語で理解するための訓練もしている。

b. 入学者数

年度		2014	2015	2016	2017	2018	2019
修士課程	一般	1	3	3	1	2	2
	社会人	1	0	0	0	0	0
	留学生	3	2	0	0	0	4
小計		5	5	3	1	2	6
博士後期課程	一般	1	1	0	2	0	1
	社会人	1	0	0	0	1	0
	留学生	0	1	0	1	0	1
小計		2	2	0	3	1	2
合計		7	7	3	4	3	8

c. 在籍者数

年度		2014	2015	2016	2017	2018	2019
修士課程 1年	一般	1	3	3	1	2	2
	社会人	1	0	0	0	0	0
	留学生	3	2	0	0	0	4
修士課程 2年	一般	8	4	5	4	2	2
	社会人	0	1	0	0	0	0
	留学生	2	4	3	0	0	0
小計		15	14	11	5	4	8
博士後期 課程1年	一般	1	1	0	2	0	1
	社会人	1	0	0	0	1	0
	留学生	0	1	0	1	0	1
博士後期 課程2年	一般	0	1	1	0	2	0
	社会人	0	1	0	0	0	1
	留学生	1	0	1	0	1	0
博士後期 課程3年	一般	6	3	3	3	2	4
	社会人	1	1	2	1	0	0
	留学生	1	2	2	3	3	2
小計		11	10	9	10	9	9
合計		28	24	20	15	13	17

4. 次世代教育

d. 開講科目

授業科目	担当教員	授業題目	開講年度
スラブ社会文化論 特殊講義 (2019年度はスラブ・ユーラシア研究 特殊講義)	岩下	ユーラシア境界研究(英語文献講読)	2014-19
	山村	転換期ロシアの経済と社会(露語文献講読)	2014-17
	越野	ロシア・ソ連文化史(露語文献講読)	2014-17
	ウルフ	Soviet History※	2014, 2016, 2018
	ウルフ	Imperial Russian History※	2015, 2017, 2019
	安達	オストロフスキーの戯曲を読む	2018
	安達	露語文献講読	2019
スラブ社会文化論 特殊講義 (2019年度はスラブ・ユーラシア総合 研究特殊講義)	長縄・越野・ 家田	スラブ・ユーラシア研究の基礎と方法	2014
	野町・ウルフ ・仙石・長縄	スラブ・ユーラシア研究の基礎と方法	2015
	宇山・越野・ 山村・岩下	スラブ・ユーラシア研究の基礎と方法	2016
	田畑・ウルフ ・長縄・仙石	スラブ・ユーラシア研究の基礎と方法	2017
	宇山・野町・ 岩下	スラブ・ユーラシア研究の基礎と方法	2018
	田畑・長縄・ 安達	スラブ・ユーラシア研究の基礎と方法	2019
スラブ社会文化論 総合特別演習 (2019年度はスラブ・ユーラシア総合 研究特別演習)	全員	スラブ・ユーラシア研究	2014-19
スラブ地域文化論 特別演習 (2019年度はスラブ・ユーラシア文化 研究特別演習)	宇山	中央ユーラシア地域研究	2014-16
	望月	ロシアの文化	2014-15
	望月	ロシアの文化思想	2014
	長縄	ロシア帝国論	2014-19
	野町	セルビア・クロアチア語	2014
	野町	ポーランド語文献講読	2015
	野町	ロシア語文献講読	2016
	越野	ロシア・ソ連文化史	2014-17
	宇山	中央ユーラシアとロシアの政治	2017
	野町	セルビア・クロアチア語初級	2017
	宇山	比較の中の中央ユーラシア史	2017
	野町	ロシア語史研究	2018
	安達	ロシア文学の文体研究入門(ヴィノグラードフ)	2018
	安達	ロシア文化論	2019
野町	中欧・バルカン半島の言語と社会	2019	
スラブ地域社会論 特別演習 (2019年度はスラブ・ユーラシア社会 研究特別演習)	田畑	スラブ・ユーラシア地域の経済	2014-19
	仙石	中東欧比較政治論	2015-19
スラブ地域相関論 特別演習 (2019年度はスラブ・ユーラシア相関 研究特別演習)	家田	スラブ・ユーラシアの地域と環境	2014-16
	野町	古代スラヴ言語文化研究	2014
	野町	ブルガリア言語文化研究	2015
	宇山	中央ユーラシアとロシアの政治	2018-19
	宇山	比較の中の中央ユーラシア史	2018-19

※は、国際交流科目を兼ねる。

e. 大学院共通授業科目

2017年からはサマーインスティテュートとして開講。

年度	科目名	代表教員
2013	境界研究	岩下明裕
	スラブ・ユーラシア学 環オホーツク海地域の経済と環境	田畑伸一郎
2014	スラブ世界のマイノリティとその言語文化：歴史・現状・展望	野町素己
	スラブ・ユーラシアの20世紀：方法としての伝記	長縄宣博
2015	近現代世界を理解する鍵としての帝国・植民地	宇山智彦
2016	境界研究への招待	岩下明裕
2017	ユーラシアの境界から見る国際関係：北東アジアの過去、現在、そして未来	岩下明裕
2018	ユーラシアにおけるボーダースタディーズと地域統合の比較：アイデンティティ、制度、利益	岩下明裕
2019	北東アジアの未来を創る：地域研究と境界研究の成果から	岩下明裕

f. 大学院生への各種助成制度

センターでは、大学院生の研究および成果発表を促進するために、スラブ・ユーラシア学講座の院生を対象とした3種の助成事業を実施している。

1) 大学院生学会報告助成

国内・国外の学会が開催する大会・研究会議等で報告するための旅費を援助。往復の交通費全額、1泊分(国外の学会の場合は2泊分以内)の宿泊費規定額を助成。募集は随時。

2) 大学院生海外調査助成

現地調査、資料収集等のための海外渡航旅費を援助。往復の交通費全額、宿泊費の規定額(15万円を超える場合は打ち切り)を助成。募集は随時。

3) 大学院生国内調査助成

資料収集等のための、原則として1週間以内の国内旅行の旅費を援助。往復の交通費全額と、6泊分以内の宿泊費規定額を助成。募集は随時。

4. 次世代教育

g. 助成制度の実績

年度	学会報告助成		海外調査助成	国内調査助成
	国内	海外		
2013	0	2	2	0
	0	2		
2014	6	3	2	0
	6	3		
2015	1	2	3	1
	1	2		
2016	4	2	5	0
	4	2		
2017	1	3	2	1
	1	3		
2018	1	0	1	0
	1	0		

h. 日本学術振興会特別研究員（DC）

スラブ・ユーラシア学講座の博士後期課程院生における日本学術振興会特別研究員への応募・採用状況と採択者のリストは、以下のとおりである。

1) 応募件数と採用状況

DC1

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019
在籍者数	0	1	1	1	0	1
継続	0	0	1	1	0	0
辞退	0	0	0	0	1	0
採用	0	1	0	0	1	1
応募	1	1	0	1	1	1

DC2

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019
在籍者数	1	0	0	0	0	0
継続	1	0	0	0	0	0
辞退	0	0	0	0	0	0
採用	0	0	0	0	0	0
応募	0	0	0	0	1	0

2) 特別研究員一覧

DC1

採用年度	氏名	研究課題	受入研究者	
2015年 ～ 2017年	生熊源一	モスクワ・コンセプチュアリズムを中心とするソ連非公式芸術の研究	准教授	越野剛
2019年 ～ 2021年	上村正之	1800 - 30年代ロシア文学におけるコサック表象の変遷	准教授	安達大輔

DC2

採用年度	氏名	研究課題	受入研究者	
2013年 ～ 2014年	松下隆志	ソ連崩壊後の現代ロシア文学研究	教授	望月哲男

i. 卒業後の進路

スラブ・ユーラシア学講座の卒業生の進路は多様であるが、修士課程修了者は博士後期課程進学および民間企業への就職が多い。当該時期の博士後期課程修了者には、すでに一定のキャリアを積んだ社会人2名が含まれ、それ以外では大学教員や研究員の職を得ている。なお、以下の表は修士課程修了の際の博士後期課程進学を除いて、現職を示している。

修士課程修了者

年度		2014	2015	2016	2017	2018	計	
就職	民間企業	1	4	1	2	0	8	
	公務員	国家公務員	0	1	1	0	0	2
		地方公務員	0	1	1	0	0	2
	教職	2	0	0	0	0	2	
	その他法人	0	0	0	0	0	0	
博士後期課程進学		2	0	1	0	1	4	
その他		0	0	2	0	1	3	
計		5	6	6	2	2	21	

博士後期課程修了・単位修得退学者

年度		2014	2015	2016	2017	2018	計	
就職	民間企業	0	0	0	0	0	1	
	公務員	国家公務員	0	0	1	0	0	1
		地方公務員	0	0	0	0	0	0
	教職	大学	2	0	0	0	0	2
		その他	0	1	0	0	1	2

4. 次世代教育

	その他法人	0	0	0	1	0	0
	学術振興会特別研究員	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0
	計	2	1	1	1	1	6

(2) 学位論文

センター教員が主査となって審査を行い、学位を授与された論文は以下のとおりである。

a. 提出件数

年度	博士論文 (課程博士)	博士論文 (論文博士)	修士論文	特定課題 演習	計
2013	1	0	2	0	3
2014	2	0	5	0	7
2015	1	1	6	0	8
2016	1	0	6	0	7
2017	1	0	2	0	3
2018	1	0	2	0	3

b. 題目一覧

1) 博士論文

	年度	氏名	題目	主査
博士論文 (課程博士)	2013	立花 優	ポストソ連期アゼルバイジャンの政治変容:旧ソ連地域における政治体制の事例研究	宇山 智彦
	2014	井上 岳彦	仏教国としてのロシア帝国:二つのカルムイク人社会に関する考察	宇山 智彦
		斎藤 祥平	N.S. トルベツコイの思想と亡命ロシア人世界:ユーラシア主義を中心に	デイビッド・ウルフ
	2015	松下 隆志	ナショナルな欲望の回帰:1900～2000年代のロシア・ポストモダニズム文学の変容	望月 哲男
	2016	長友 謙治	ロシアの穀物輸出国としての発展可能性と制約要因	山村 理人
	2017	服部 倫卓	ロシア・ウクライナ・ベラルーシの通商・産業比較—地政学危機の中の経済利害—	田畑 伸一郎
	2018	大武 由紀子	アヴァンギャルド芸術家グスタフ・クルーツィス:生産主義理論とその具象	宇山 智彦
博士論文 (論文博士)	2015	栖原 学	ソ連工業の研究—長期生産指数推計の試み—	田畑 伸一郎

2) 修士論文

	年度	氏名	題目	主査
修士論文	2013	千葉 信人	ソヴィエト・カレリアのフィンランド系移民政策1920-1935:社会主義, ナショナリズム, 先進技術	松里 公孝
		高良 憲松	チェコスロバキアとマーシャル・プラン 証言を通してみる「東西の架け橋」の試み	家田 修

4. 次世代教育

修士論文	2014	生熊 源一	ソ連非公式芸術の変容:グループ「集団行為」の境界意識	越野 剛
		平岩 史子	アレクサンドル・ボグダーノフの「新しい世界」:集団主義的人間と血液交換を中心に	越野 剛
		中田 宏治	19世紀初頭の日露関係:千島におけるアイヌへの関わりを中心に	岩下 明裕
		高橋 伽奈	欧州ミサイル防衛をめぐる米露関係	岩下 明裕
		マムマトフ アリベイ	北方領土問題と世論	岩下 明裕
	2015	植松 正明	マイノリティ問題の中のバルト・ドイツ人:1920年代前半の農地改革と文化的権利の観点から	長縄 宣博
		真弓 浩明	現代ロシアの極東地域開発政策の多角的分析	岩下 明裕
		李 欣燭	中国とロシアにおける対外経済制度の比較	田畑 伸一郎
		カマロフ アブドゥルアジズ	多国籍企業ロシア現地法人における人的資源管理:日系企業のケースを中心として	田畑 伸一郎
		長谷川 さゆり	ロシアの国防費と軍の装備の近代化	田畑 伸一郎
		卞 曉歆	中国とロシアの財政制度の比較 —中央と地方の観点から見る	田畑 伸一郎
	2016	ミルラン ベクトルスノフ	ソヴィエト・キルギスの形成:政治エリートの役割を中心に	宇山 智彦
		北村 宣彦	イワン・イリインの国家観の変遷:1930年代から40年代・50年代にかけて	越野 剛
		佐々木 祐也	A.S.シシコフの言語思想と『ダフニス』の翻訳	越野 剛
		川淵 華子	20世紀初頭の帝政ロシアにおける右派の反ユダヤ主義的主張:V・V・シュリギンのベイリス事件における言説から	長縄 宣博
		武藤 鉄太	ロシア正教会の見た古儀式派:古儀式派研究黎明期と『正教の対話者』(1850~60年代)	長縄 宣博
		金 盾	ロシアにおける日系小売業の発展に関する考察:「ユニクロ」を中心に	田畑 伸一郎
	2017	千須和 里美	バルト海沿岸におけるロシア・EU地域協力の課題と展望—カリーニングラード地域の事例から—	仙石 学
		武田 和浩	日本企業によるロシア市場進出の理論的再検討	田畑 伸一郎
	2018	上村正之	19世紀前半のロシア歴史小説におけるコサック表象	安達 大輔
		谷原光昭	非承認国家とトランスナショナリズム:現代アブハジア問題におけるチェルケス・ファクター	宇山 智彦

(3) 博士論文に基づく書籍の出版

加藤美保子『アジア・太平洋のロシア：冷戦後国際秩序の模索と多国間主義』北海道大学出版会、2014年。

秋山徹『遊牧英雄とロシア帝国:あるクルグズ首領の軌跡』東京大学出版会、2016年。

山本健三『帝国・「陰謀」・ナショナリズム：「国民」統合過程のロシア社会とバルト・ドイツ人』法政大学出版局、2016年。

櫻間瑛『現代ロシアにおける民族の再生：ポスト・ソ連社会としてのタタルスタン共和国における「クリャシェン」のエスニシティと宗教=文化活動』三元社、2018年。

高橋沙奈美『ソヴィエト・ロシアの聖なる景観：社会主義体制下の宗教文化財、ツーリズム、ナショナリズム』北海道大学出版会、2018年。地域研究コンソーシアム賞登竜賞受賞

4. 次世代教育

(4) 学部教育

センターの教員は、大学院だけでなく全学教育や文学部でも授業を開講している。

全学教育

一般教育演習（フレッシュマンセミナー）

初年次の学生が大学のゼミ形式の授業に慣れることを目的として、出席者を20名程度に限定して開講されている。ここでは、文献の調べ方、グループ討論、プレゼンテーション、質疑応答、メモの取り方、レポートの書き方といった、大学での勉強に限らず何かを調査・報告する際に必要な技術を体験・習得することができる。近年の授業題目は以下の通り。

2018年度 1学期 多民族社会について考える(長縄宣博)

2017年度 1学期 災害と復興を地域から考える(家田修)

2016年度 1学期 多民族社会について考える(長縄宣博)

2015年度 1学期 長い小説をいかにして読むか:ドストエフスキー『罪と罰』に挑む(越野剛)

2014年度 1学期 多民族社会を考える(長縄宣博)

総合科目（人間と文化）

この講義は、特定の主題を複数の学問領域あるいは具体的な地域から論じることを通じて、学生が今後、各自の研究テーマや活動分野を選択する際の参考にすることを期待して開講されている。数名の教員がリレー形式で講義を行うこともある。近年の授業題目は以下の通り。

2018年度 1学期 帝国論から見る国際関係史(宇山智彦)

2017年度 1学期 ボーダースタディーズ入門(岩下明裕ほか)

2016年度 1学期 スラヴ・ユーラシアの人々と暮らし(高橋沙奈美ほか)

2015年度 2学期 スラヴ・ユーラシア学への招待(長縄宣博ほか)

2014年度 2学期 ソ連崩壊とその後の世界(後藤正憲ほか)

文学部

スラブ社会文化論

この講義は、スラブ・ユーラシアに関わる最新の研究動向とその課題について概観することを目的としている。

2018年度 1学期 スラブ・ユーラシア地域研究入門(菊田悠ほか)

2018年度 2学期 スラブ言語文化概論(野町素己)

2017年度 1学期 スラブ・ユーラシア地域研究入門(高橋沙奈美ほか)

2016年度 2学期 古代教会スラブ語入門(野町素己)

2015年度 2学期 東スラブ言語文化概論(野町素己)

2014年度 1学期 比較史の中の近現代中央アジア(宇山智彦)

2014年度 2学期 西スラブ言語文化概論(野町素己)

また文学部では、「スラブ社会文化論」以外に、「ロシア文学史概説」などの授業を担当することもある。

2015年度 2学期 19世紀ロシア小説の「さわり」を読む(望月哲男)

(5) 中村・鈴川基金奨励研究員制度

人文・社会科学の諸分野で、スラブ・ユーラシア地域を研究対象とする北海道外の若手研究者に助成金を提供し、スラブ研究センターにおける施設・資料の利用、及び研究員との共同研究をうながすことによって、スラブ・ユーラシア地域研究の振興を図ることを目的とする。助成対象は、原則として国内の国・公・私立大学の大学院博士(後期)課程に在籍する者(外国籍の者も含む)であり、毎年若干名を採用している。

この制度は日本における若手研究者の研究水準の向上、研究交流の促進、センターの全国共同利用の促進など、大きな効果を及ぼしている。

a. 助成金概要

・中村研究奨励基金(略称中村基金)

ロシア・東欧の地理学を専門とされる中村泰三氏(1933-2016)がスラブ地域に関する総合的研究の振興のため、2006年とご逝去後の2017年にセンターにご寄付下さった基金である。センターでは、それまでの鈴川基金の高い評価に鑑み、2006年度より鈴川基金に合わせて、鈴川・中村基金奨励研究員制度として運用してきた。2017年からは、中村・鈴川基金奨励研究員制度として運用している。

・鈴川研究奨励基金(略称鈴川基金)

篤志家鈴川正久氏(1915-2004)がスラブ地域に関する総合的研究の振興のため、1985年にセンターにご寄付下さった基金である。センターでは、鈴川氏のご意志に添うよう、学術交流に対する助成、スラブ地域に関する研究者・研究調査に対する助成のために、同基金を運用している。この奨励研究員制度は、同基金活用の一環として、1987年度から始められた。

b. 応募件数と採用状況

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019
応募	9	3	8	9	5	4
採用	4	3	6	4	4	2

c. 中村・鈴川基金奨励研究員一覧

年度	氏名	所属	滞在期間	専攻分野・研究テーマ	ホスト教員
2014	長沼 秀幸	東京大学大学院	2014.7.1～7.16	ロシア帝国の現地権力機関によるカザフ草原統治—18世紀後半から19世紀前半を中心に—	宇山 智彦
	梶山 祐治	ロシア国立人文大学大学院	2015.2.1～2.21	アレクセイ・ゲルマンの映画における文学的コンテクストと視覚的モチーフ	越野 剛
	大谷 崇	早稲田大学大学院	2014.8.4～8.19	シオランやエリアーデ等に深甚な影響を与えた哲学者ナエ・イオネスクの言説を、特に政治への発展に留意し、他の右翼思想家と比較しつつ解明する。	家田 修
	金沢 友緒	東京大学大学院	2014.7.14～7.26	18世紀後半から19世紀前半ロシアの新聞・雑誌にみるドイツ文学の影響	越野 剛

4. 次世代教育

2015	重松 尚	東京大学大学院	2015.12.7～ 12.25	両大戦間期ロシアの政治思想や少数民族政策および第二次世界大戦中のロシアにおける民族対立	仙石 学
	オユンバートル・ムンヘジン	慶應義塾大学大学院	2015.6.15～ 6.29	中ソ対立のモンゴル要因	ウルフ ディビッド
	大場 佐和子	神戸大学大学院	2015.8.27～ 9.17	①複雑化している憲法律の制定と改廃の状況について ②ロシアや中欧諸国、それ以外のスラブ・ユーラシア圏の司法制度や法文化について	仙石 学
2016	細川 瑠璃	東京大学大学院	2016.7.14～ 8.2	パーヴェル・フロレンスキイの手紙・詩・回想における視覚的表象の分析	越野 剛
	醍醐 龍馬	大阪大学大学院	2016.8.19～ 9.2	岩倉使節団外遊期の日露関係	岩下 明裕
	山脇 大	京都大学大学院	2016.8.22～ 8.31	ロシアにおける天然資源開発と環境政策	田畑 伸一郎
	齋須 直人	京都大学大学院	2016.10.11～ 10.25	過去40年間の日本における『白痴』: 研究書・翻訳・日本文学への影響	越野 剛
	中澤 拓哉	東京大学大学院	2016.11.21～ 12.2	社会主義ユーゴスラヴィアにおける民族史叙述とナショナリズム——モンテネグロを事例として(1960-1980年代)	家田 修
	門間 卓也	東京大学大学院	2017.1.30～ 2.10	社会主義ユーゴスラヴィアにおける対ソ連政策と民族間関係の再規定について	仙石 学
2017	鈴木 佑梨	お茶の水女子大学大学院	2017.7.10～ 7.26	18世紀前半におけるロシア外交官の国家勤務	長縄 宣博
	菅井 健太	東京外国語大学大学院	2017.8.31～ 9.9	ブルガリア語北東方言における補語の接語重複—言語接触と文法化の観点からの分析—(ルーマニア・ブラネシュティ村の方言を中心に)	野町 素己
	田中 沙季	早稲田大学大学院	2017.9.1～ 9.10	Ф.М.ドストエフスキーの「プーシキン演説」における理想的な読者像としての『エヴゲーニー・オネーギン』のタチヤーナとその影響	越野 剛
	ダツェンコ・イーホル	名古屋大学大学院	2017.9.18～ 10.1	ウクライナ語の史的アクセントについて	野町 素己
2018	畔柳 千明	東京大学大学院	2018.7.13～ 8.3	北京宣教師団とゴロフキン使節派遣後のロシアの対清政策	ウルフ ディビッド
	澤 直哉	早稲田大学大学院	2018.9.3～ 9.16	オーシプ・マンデリシタームの1930年代前半の創作における生物学・地質学からの影響	安達 大輔
	須川 忠輝	大阪大学大学院	2018.10.17～ 10.31	1990年代半ばのチェコ、スロバキアにおける中央地方関係の動態	仙石 学
2019	菅原 彩	早稲田大学大学院文学研究科 博士課程	2019.9.11～ 9.24	コズロフの『修道士』初版におけるセンチメンタリズム的要素と当時の物語詩受容	安達 大輔
	鳥飼 将雅	東京大学大学院法学政治学 研究科 博士課程	2019.9.17～ 9.27	ロシアにおける連邦政府、地方政府、市郡政府間の三層関係の変遷 1991年-2018年	宇山 智彦

(6) ポスドク制度

センターでは、財源が異なる様々なポストドク制度を提供している。非常勤研究員は、北海道大学から配分される財源に基づき、毎年1～2名が採用される。任期は原則として2年である。さらに、センターの教員を指導教員とする日本学術振興会特別研究員 PD や RPD などがある。

a. 非常勤研究員の応募件数と採用状況

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019
応募件数	15	20	8	-	11	-
採用件数	2*	2*	2	2	2	2

*任期が実質2年間のため、2014年と2015年には2名のうち1名が、2017年と2019年には前年度採用者2名がそれぞれ引き続き採用された。

b. 非常勤研究員一覧

氏名	任期	専門	現職
辛嶋博善	2013.4.1～2015.3.31	文化人類学、モンゴル牧畜社会の研究	国立民族学博物館・特任助教
金山浩司	2014.4.1～2016.3.31	ソ連科学技術史	九州大学基幹教育院・准教授
菊田悠	2015.4.1～2016.3.31	中央アジア定住社会の文化人類学的研究	北海学園大学経済学部・准教授
神竹喜重子	2016.4.1～2018.3.31	ロシア音楽史	日本学術振興会・特別研究員(PD)
宗野ふもと	2016.4.1～2018.3.31	文化人類学・ウズベキスタンのバザールに関する研究	筑波大学人文社会系・特任研究員
村上智見	2018.4.1～	考古学 シルクロードに関する研究	スラブ・ユーラシア研究センター・非常勤研究員
伊藤倫	2018.4.1～	ロシア演劇史	スラブ・ユーラシア研究センター・非常勤研究員

現職は2019年4月1日現在。

c. 日本学術振興会特別研究員 (PD) 応募件数と採用状況

PD

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019
在籍者数	3	1	1	2	3	1
継続	2	1	1	0	2	1
辞退	0	0	0	0	0	2
採用	1	0	0	2	1	0
応募	2	3	2	3	2	0

4. 次世代教育

d. 日本学術振興会特別研究員（PD）一覧

PD

採用年度	氏名	研究課題	受入研究者		現職
			職名	氏名	
2012年度 ～ 2014年度	中山大将	日本帝国崩壊後の樺太植民地社会の変容解体過程の研究	教授	岩下明裕	釧路公立大学経済学部・講師
2012年度 ～ 2014年度	高橋美野梨	境界研究から見る「北極」-デンマークの北極圏戦略と媒介項としてのグリーンランド	教授	岩下明裕	スラブ・ユーラシア研究センター・助教
2014年度 ～ 2016年度	フィオードロワ アナスタシア	「戦後」の東アジアにおけるリアリズム映画の比較研究	特任教授	望月哲男*	ロシア国立研究大学高等経済学院 東洋学・西洋古典学研究所・准教授
2017年度 ～ 2018年度	植田暁	全面的集団化期の中央アジアにおける遊牧・農耕経済の研究	教授	宇山智彦	日本貿易振興機構アジア経済研究所・研究員
2017年度 ～ 2018年度	松寄英也	自治領なき領域的自治の機能：ソ連解体期のクリミアと沿ドニエストルの比較研究	教授	宇山智彦	津田塾大学学芸学部・専任講師
2018年度 ～ 2020年度	清沢紫織	ベラルーシ及びウクライナにおける民族語の威信形成に関する比較研究	教授	野町素己	在籍中

*望月哲男特任教授が2015年度末で退職したため、2016年度は越野剛准教授が受入研究者となった。

(7) 受賞

センターの学生・PD が受賞した賞は次の通りである。

受賞者	賞名	受賞年月	受賞対象
松下隆志	第4回日本学術振興会育志賞	2014年 2月	ソ連崩壊後の現代ロシア文学研究
高橋美野梨	第1回日本島嶼学会研究奨励賞	2014年 9月	新たな分析概念として「対外的自治」と「対内的自治」を導入し、権限として獲得した自治の性質を明らかにした
高橋美野梨	第4回地域研究コンソーシアム賞登竜賞	2014年 11月	高橋美野梨著『自己決定権をめぐる政治学—デンマーク領グリーンランドにおける「対外的自治」』(明石書店、2013年)
松下隆志	北海道大学文学部同窓会楡文賞	2016年 3月	ロシア現代文学研究における卓越した研究業績及びロシア現代文学の積極的な翻訳出版活動
秋月準也	第9回小田島雄志・翻訳戯曲賞	2017年 1月	ミハイル・ブルガーコフ著『ゾーヤ・ペーリツのアパート』翻訳
生熊源一	2018年度日本ロシア文学会賞 (論文の部)	2018年 10月	論文「息の転換—「集団行為」における対物関係—」